

非正規社員の企業内訓練受講の規定要因とその効果*

2010年4月16日

労働政策研究・研修機構

原 ひろみ**

<要旨>

本稿では、OJTとOff-JTを取り上げて、企業内訓練を受講している非正規社員の属性を明らかにし、非正規社員にとって企業内訓練の受講が勤務先での賃金や職業能力の向上にプラスの効果があるのか、また正社員としての転職確率が上がるのかを検証する。

分析の結果、第1に、非正規社員として働いている人のうち、期待勤続期間が長い人はOJT受講確率が高く、またフルタイム勤務の非正規社員は35時間未満のパートタイム勤務の非正規社員よりもOff-JT受講確率が高くなることが示される。つまり、非正規社員のなかでも正規社員に近い働き方をしている人が企業内訓練を受けやすい傾向がうかがえる。

第2に、非正規社員にとって、OJTとOff-JTいずれの企業内訓練受講にも、賃金引き上げ効果が観察されない。しかし、企業内訓練を受講することで、仕事能力に関する非正規社員の自己評価が高まることが示される。また、企業内訓練の受講と生産性の間には、統計的に有意に相関関係があることを示す結果が得られる。

第3に、前の勤務先でのOff-JTの受講は、正規社員と非正規社員の両者とも、転職する場合における正規社員への転職確率を高めることが示される。とくに、同一職種間の転職では、前職でOff-JTを受講した人のほうが、非正規社員から正社員への転職確率が統計的に有意に高まる。

JEL: J23, J24, J31

* 本稿は、原(2010b)に加筆・修正したものである。執筆にあたって、香川めい氏、小杉礼子氏、佐藤博樹氏、佐野嘉秀氏、山本雄三氏、堀春彦氏、今田幸子氏、JILPT所内研究会参加者(2010年1月26日)から有益なコメントをいただいた。記して謝意を表す。

** 人材育成研究部門 副主任研究員、連絡先: hhara@jil.go.jp .